

編集/コンビニの会事務局
連絡先/〒452-0807 名古屋市西区歌里町147番地
TEL/FAX(052)505-6082(コンビニハウス)

障害をもつ人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人
コンビニの会

定価/150円
昭和54年8月1日第三種郵便物承認

第151号



林のなかにいるようなカフェ・カノンの庭 (碧南市弥生町)

ふしぎな感覚でつづくカノン

フリー編集者 佐宗 圭子

タオルの製造業から転身し、夫婦でカフェを営んで5年ほどの梶原敏明さんと美喜さんに、昨年またはや転機がおとずれた。碧南駅前の区画整理にともない建物が近く取り壊されることはわかっていた。いよいよ店を引き払うスケジュールを隣の居酒屋と話し合った。常連のお客さんたちには申し訳ないが、移転して店をつづける体力はない。二人はこのまま店を閉めようと考えていた。

そんな矢先のコロナ禍である。昨年4月、緊急事態宣言のため2ヶ月ほど長期休業。その間に、美喜さんは前年暮れに亡くなった父の家の整理に当たった。家は美喜さんの母方の実家で戦前から昭和40年頃まで料理旅館だった日本家屋である。その家を引き継ぎ、庭を愛でながら父は離れて晩年を過ごした。ベッドや遺品をすっかり片付け、がらんとした離れに立ったとき、「ここでカフェをやる」と突然「何か」が降りてきた(美喜さん談)。そこからは駆け足で今年1月に店を移転オープンした。

(次頁へ)

美喜さんは語る。「本当にふしぎなんだけど、コロナがなかったら前の店を長期休業することもなく、ここで店をやろうとも思わなかった。今は、この家が私たちを使って、店をやらせたのではなからうかと思っちゃう（笑）子供心にうっすら覚えてるけど、昔はこの辺に料理屋や映画館があった人がたくさん出入りする場所だったから。これまでのことは全部ここで店をやるためだったような気がしてね。経営は大変だけど1日でも長くここで店をやっていきたい」

敏明さんも「廊下から母屋のトイレに行きやすくなるために壁をぶち抜いたんです。そうしたら建物の息がしやすくなったみたいだね」と柔らかな笑顔で話してくれた。以前の常連客やギヤラー目当ての人たちが入れかわり立ちかわりおとずれる。おいしいコーヒーでほっと一息。庭を吹く風が何とも心地よい。



(上)大きな窓から庭を眺めてコーヒーブレイク
(下)カフェのマスターがすっかり板についた
敏明さん

雑記 ごまめの歯ざしり

生きる日本史

舅（夫の父）は4年前に吐血し入院療養した後に別府での一人暮らしを諦め、熱田区のサービスピス付き高齢者住宅に引っ越してきた。色々と面白い話が聞けたので紹介したい。

湯布院の近くにある半農半林の小さな集落で昭和3年に生まれた。『二十四の瞳』と同じく低学年の頃は分教場に通い、若い女性の先生からたくさん好きだ。軍事訓練が増えた青年学校では先生から「田んぼや山を守ることも国を守ることだ」と教わった。少年にも兵隊を志願させるような政策に乗ってはいけないと暗に伝えてくれたのだと。馬は坂道が苦手だから牛の背に荷物を積んで山をジグザクに降りる様子は身振り手振りつきである。牛は耕耘機でもありトラックでもあるのだね。

終戦の年の秋の夕暮れ、南方に出征していた兄が突然、手を振り大声で名を呼びながら帰ってきた話は何度聞いても感動的だ。戦後復興の時期にはコメを背負い、炭鉱でにぎわう町までヤミ米を売りに行った。「当時は警察の取り締まりがあったでしょう？」と尋ねるとヒミツの情報網を使って捕まったことはないとか。

昭和35年、幼い息子を連れて別府に出ることを若い夫婦は決意した。大事な牛たちを売ったお金を持って。舅は得意の数字を生かせる道路工事の現場監督として息子3人を育て60歳過ぎるまでがむしゃらに働いた。定年直後に妻を亡くし、その後、敬老会の会長をやるなど必死に生きてきた。

故郷の話はいつも盛り上がる。農繁期の前には男の人だけで御馳走を作り、女性に休んでもらい感謝を伝える日があったなど珍しい山村の生活を「へえ」と聞く。名古屋に来て寂しくないのはたたくさんの記憶があるからか。ほぼ1世紀生きてきた人の話は歴史好きの私にとってはご馳走だ。

（会報委員 宮川 優子）

「おとなになる」「おとなである」ことが
むずかしい時代と社会の中で
わたしたちは、どう「支援者」になり、
「支援者」であり続けることができるのか

日本福祉大学 教授 木全 和巳

エゼル福祉社会のある職員から相談を受けた。40歳を目前にし、もうベテランと呼んでよい立場の職員だった。その職員は、ひとまわり以上年の離れた若い世代の職員とのふるまいや内面をどのように理解して、共に学び合い、育ち合っていけば良いのかと悩んで

おり、最近の若者、学生像についてわたしに尋ねてきた。

その職員の見立てでは、自己肯定感に乏しく過度に失敗を恐れる人が多くなったように思っており、よくいえば慎重で危機管理能力が高いが、それを長所にできる人ばかりでなく、身構えて能動的に動けなくなってしまうこともあるのではないかと話していた。

そのベテラン職員と話した翌日に、偶然別の研修でエゼル福祉会の若い職員さんと同席したが、私自身が受けた印象は至って「まじめ」であった。この世代間の認識の「ズレ」をどう埋めていったらよいかということ
は超難問である。



3、4年生の学生と行うソーシャルワーク演習のワークの一つから

① 自分はおとなであるか？

I おとなである

II ほぼおとなである

III ちよつと子ども

IV まだ子ども

② おとなになりたいか？

I おとなになりたい

II 少しになりたい

III あまりなりたくない

IV なりたくない

①、②についてそれぞれの理由を言葉にしてもらい、一緒に考えている。20年前と現在の違いは、明らかに自分は「おとな」であり、「おとな」になりたいという学生たちは、減っていることであろうか。理由は、「社会

に出る不安」、「なりたいおとなに出会わな

い」、「責任をもちたくない」などである。

「おれちゃん」（「おれ様」と「ボクちゃん」をくっ

つけた造語）と呼ばれる汚職まみれの自分の

利益しか考えない権力の側にいる政治屋た

ちをみていたら、そう思うのも仕方がないか

もしれない。宮崎駿の名作『千と千尋の神隠

し』（2001）では、からだどこころが急激

に変化をする思春期をくぐり抜け、子どもか

らおとなになりゆくための条件が見事に描

かれていた。わたしが読み取った条件は、

① お互いに人間として尊重し合える

「はなしあい」のちから

② 必要で大切な社会の

「やくそく」をまもるちから

③ 自分だけではなく他者のために

「はたらく」ちから

であろうか。

◇ ◆ ◇ ◆ ◇ ◆ ◇ ◆ ◇ ◆

もうすぐわたしは60歳になる。20代半ば

までは学生だった。40歳までは児童養護施設

や知的障害児施設など現場にいた。その後の

20年は大学の教員をしている。

「論語」では、60歳を「耳順」と呼び、「修

養ますます進み、聞く所、理にかなえば障壁

なく理解しうる」年齢のようだ。けれども40

歳の「不惑（心に惑うことがなくなる）こ

とも、50歳の「天命」（天が自分に与えた使

命の自覚）も積み残したまま今に至っている。

わたしは、孔子ではないから当然だが、20

代の頃、こんな60歳になるとは、想像もでき

なかった。世界も日本も超格差社会である。

自然破壊も半端でない。人種・民族やジェン

ダーやしようがいによる差別も未だに解消

されていない。戦争も紛争もなくならない。

さまざまな虐待、ハラスメントなどにより生

きづらさを抱えた人たちも多い。加えて「コ

ロナ危機」だ。でも、「オリパラ」は「いの

ち」を無視して強行される。世界的にSNS

は普及しつつあるが、監視社会の危険もある

なかでネット依存やヘイト書き込みなども

他にも書き上げたらきりがないほど

の???がどこまでも続く。「何でだろう」

「どうしたら良いのだろう」と、未だにわか

らないことだらけの悩み多き青年を引き

ずっている自分が確かにいる。

わたしがこうした事態についてどう考え

るのか?ということよりも、わたしだったら

こんなことをしてみたいということを書い

てみたい。

◇ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

わたしが尊敬する精神科医の森川すいめ

いさんが登場するEテレ『こころの時代 対話の旅に導かれて』をベテラン職員、若手職員、当事者でいっしょに観るのはどうだろう。私も参加したい。森川氏は『感じるオープン・ダイアログ』という新書が出たばかりなので詳しくはネットで検索して読んで欲しい。

観た後で、グルグルと「対話」と続いている。ベテラン職員からは、率直に、若い職員さんたちには、こんなことを感じているけれど、みなさんはどう受けとめているのか？と率直に尋ねてみるのだと思う。「その人のいないところでその人の話さない」ということが、「オープン・ダイアログ」の鉄則。ここ数年の中で、ようやくわたしもこのことの意味と価値が少しわかるようになってき

た。

森川さんのことば。「フィンランドに行ってみたらプログラムは、オープン・ダイアログの説明が100のうち0.01くらいなんですよ。『自分の話をしなさい』と言われるんです。いやいや、そうじゃなくて、オープン・ダイアログのやり方とか、対話の腕前を上げたいんですけど。すると、向こうの人たちは言うわけですよ、

『あなたは誰なのか』と。『それが分からないければ、苦しんでいる人の側にいられるはずないでしょ』と。」



たまたま支援を受ける側にいる当事者も同じである。「当事者研究」では「自分の苦

労」を「研究」するのだ。お互いに混じり合っ
て、終わりなき「対話」の時間を何とか見つけ出し、探り出しながら、意識的に続けていくことだ。



「おとなになること」「おとなであること」
がむずかしい時代だ。いまはこんな時代、こんな社会、生きづらさの要因はこうじゃないかと一人ひとりが語ってみることだ。それなりに思うこと、考えることも。一人ひとり自分を潜らせながら、自分の弱さも含め語ること。他者の考えを聴きながら、考え直すこと。共通の何かが見えてきた時に、それぞれの納得できることばが見つかるはずだ。ここから納得できることばがないと、行動に結びつかないように思う。



《活動状況》

5月

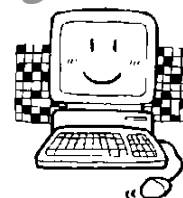
- 3日 WILL・VOLO 祝日開所
- 10日 WILL 職員会議
- 14日 VOLO 職員会議
- 12日 連絡調整会議
- 13日 きょうされん愛知支部講演会
- 17日 通所主任会議
- 18日 名古屋生活支援事業所連絡会会議
(渥美)
- 18日 同朋大学ゼミ参加 (溝口・大野)
- 20日 西区保健福祉センター給食講習
(曾我)
- 21日 会報発送
- 17~21日 職員交流実習 W I L L (馬淵)
- 21.22日 防火管理責任者講習 (佐藤)
- 25日 日本福祉大学講義 (溝口)
- 26日 生活支援部主任会議
- 27日 通所親の会
- 28日 防災会議 (宇都宮・山崎)
- 29日 同朋大学ゼミ参加 (溝口・山崎)

6月

- 2日 会報会議
- 3日 監事会
- 4日 VOLO 職員会議
- 7日 WILL 職員会議
- 8日 理事会
- 9日 連絡調整会議
- 14日 通所主任会議
- 16日 生活支援部主任会議
- 16日 災害対策会議
(大川・榊原・溝口・佐藤・大西・寺澤・野村)
- 18日 名古屋生活支援事業所連絡会会議
(渥美)
- 19日 重度訪問介護従業者養成研修
- 20日 全障研 春ののびのび講座
(犬飼・伊藤・松本・田原・戸谷)
- 23日 評議員会
- 24日 理事会
- 24日 通所親の会
- 26日 重度訪問介護従業者養成研修
- 27日 就職フェア (溝口)
- 29日 名障連 フォローアップ研修
(犬飼・松本・伊藤・田原)



事務局コーナー



「ご協力ありがとうございました」

5月～6月（敬称略・順不同）

★ ご寄付いただいた方々

(NPO 法人コンビニの会)

※会報購読料1万円以上お振込みの方

加藤富美子 富永典子

スズキヨウコ

★ 物品寄付をいただいた方々

(コンビニハウス)

久保昂太朗 石原まち

滝藤建設(株)

(WILL)

丹羽恵子 林 勇輝 浅井宏紀

(VOLO)

安永麻里 塩澤しのか 高嶋一臣

石原優樹 鈴木丈登

長野資子 伊藤弘子

★ 活動にご協力いただいた方々

(コンビニハウス)

大森 信 石原正寅 辻本道子

藤本菜見 石原まち 鈴木千春

寺西 剛 村上梨央 和田遥香

榊原さち 東原光江 西川昇吾

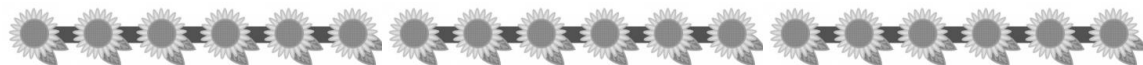
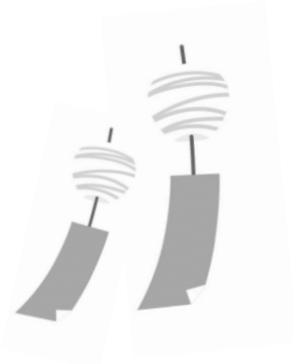
田村淳仁 清水柚衣

酒井まみ子 戸部アスカ

★ 会報発送ボランティア

半田素子 佐藤美紀子

丹羽正子 吉田嘉子



会報をお読みいただいている

皆さまへ

暑中お見舞い申し上げます。日頃、読者の皆様方にはコンビニの会、エゼル福祉会の活動をご支援いただき感謝しております。

現場では昨年から続いているコロナの影響で思うような活動ができていません。それでも少しずつ前を向けるように日々の工夫や新たな取り組みに挑戦しています。コンビニの会としてはワクチン接種の進展によって徐々に活動範囲を広げていけるとの見通しから秋から地域サロンの再開を予定しております。ご参加いただけますようお願い申し上げます。

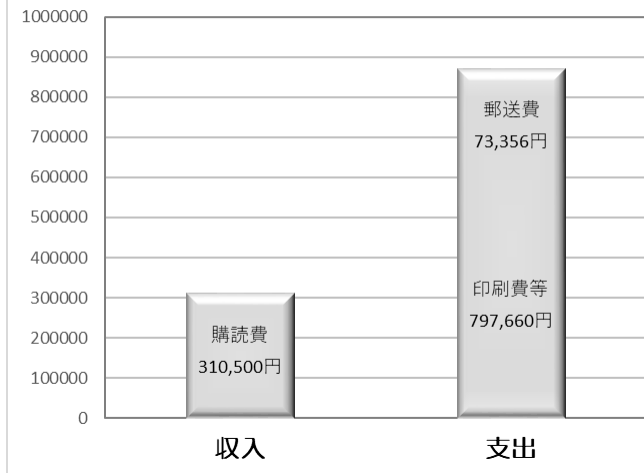
会報を購読して、障害のある人を知り、共感していただけることはたいへん心強いことです。エゼル福祉会と役割を分かちながら、今後も社会とつながる役割を果たす決意です。

暮らしの場の新施設建設の話を具体化すべく、施設見学や制度の学習なども進めています。すでに家族の下から自立した暮らしの中でも療養や二次障害など様々な困難があります。厳しい状況になっても安心して生活が続けられるような仕組みが求められています。

NPO法人の事業としては所有するマンションが満室になり黒字です。一方、会報部門は赤字です。このような形での会報発行にご理解いただけましたら会報作成費の捻出にご協力ください。会報定価は150円です。1,000円頂けますと助かります。趣旨をご理解いただける方のみで結構です。強制ではございませんので、ご承知ください。

特定非営利活動法人コンビニの会 理事 宮川優子

2020年度 会報発送に関わる収入と支出



よろしくお願ひします



「私、絵が描きたい」

通所部 V O L O 職員

宮崎 結

「私の今の夢は、自分で絵を描く事なんだ」

Aさんからその言葉を聞いたのは、ある定期面談の事でした。AさんはV O L Oで、パソコンを使った活動を行っています。Aさんは手足に障害があるため、パソコンの操作を行うときは、車椅子に座り、机にスイッチ付きのアームを顎の高さに固定して、それを顎で押すことにより入力を行っています。活動は文章を打ったり、編集などをメインに行っていました。

パソコンを使用して絵を描くようになったきっかけは、職員がAさんのパソコン操作の練習の為に取り入れた、パソコン上で出来る

塗り絵のソフトからでした。これまで、塗り絵をしたり、字を描く場合は、Aさんの手を職員が支えながら行う方法をとっていましたが、このソフトであれば、Aさんが自分で思った色を思った場所に塗ることが出来る

自分のイメージで作品を作り上げることが出来ます。二十代の頃までは自分でペンを持って絵を描くことが出来ていて、油絵も描いていた。絵を描くことが好き。今はもうできないかと思っていた。そう話すAさんは、夢中になって色塗りに取り組まれるようになりました。それからAさんは塗り絵から、線や点を使って文字を書くことが出来るようになりました。ああ、これがAさんの本当の筆跡なのだなと思うと、とても感慨深いものがありました。

Aさんは、次は自分で色鮮やかなハートの絵を描きました。それを「これ見て！」と嬉しそうに見せてくれた時、その目の輝きで私まで嬉しく感じました。

そうした中で面談時、Aさんが話してく

れた「自分で絵を描きたい」という気持ち、もう出来ないか思っていたことが出来るという喜びを、私は大切にしていきたいと思いました。

ですがそんな活動の中で、パソコン班は塗り絵ばかりやっていないか？遊びとの違いは？という声も聞くことができました。Aさんが生き生きと取り組まれている活動だった為に、私はとても悔しい気持ちになり、こんなに素敵な絵が描けているということを知ってもらえるような活動にできないかと考えました。そこで私はAさんに「V O L O 便り（仲間等に配布する便り）に絵を載せてみないですか？」と聞いてみました。

Aさんは少し恥ずかしそうにされながらも「いいよ」と応えてくれたので、どの絵を載せるか相談し、Aさんの大好きな芸能人の似顔絵を掲載させてもらうことにしました。すると、それを見た方から「すごいね、これをパソコンで描いているの？」「細かいところまで描けていますね！」と反応があり、Aさ

んはとても嬉しそうな表情をされていました。Aさんは「次は、廊下に掲示したらもっとみんな見てくれるかな？」と活動にさらなる意気込みを見せてくれています。

「私、絵を描きたい」というAさんの言葉は、活動を考えて行く上で、職員が仲間の何に注目し、何を大切にしていかなければならないか、改めて気づかせていただく言葉になったと思います。



オリンピックのトーチを書いてます♪

仲間の給料アップに

頑張っています!!

通所部 W I L L職員

大森 直子

～ はじめに ～

二年も前のことですが、通所施設「W I L L」の授産活動で作ったお菓子に日付（賞味期限）を押し間違えてしまい、買って下さったお客様からご注意を受けたことがありました。

同じ間違いが繰り返されたこともあり、商品には何も問題が無いのに外部への販売を遠慮することになりました。どうやって販売を再開しようかと考え始めた頃に、コロナウイルスが蔓延し始め社会全体が自粛モードになり販売の再スタートの足かせとなりました。

賞味期限の日を間違えると言うミスは、仲間たちの給料を激減させ1か月の給料が10000円に満たない月もありました。

授産活動に参加している障害のある仲間からも「何でこんなに給料が減ってしまったの？」とか「職員さん、何とかしてよ！」と不満の声が上げていましたが、事態は一向に好転しませんでした。この大問題は評議員さんからも質問が出されていました。

ところが、昨年度の後半から新製品が発売されたり、売り場が確保されるなどの動きが始まり、活動に勢いがみられるようになりました。

6月に開かれた理事会の事業報告では賃金のV字回復が報告されました。

一体、授産施設W I L Lで何が起きたのか???授産担当の職員に聴いてみたいと思いました。（理事長 大川 美知子）



昨年の4月、私がWILL製菓グループに配属となった頃は、まさにコロナの脅威が身近に迫り、日本中、世界中が混乱の渦中になりました。外出自粛や接触機会の自粛が求められる中、WILLは通常通り開所し、利用者が毎日通える居場所としての役割を担うことに精一杯の状態だったと思います。

5月になり、6月になり、一度は収束するかと思われたコロナは再びの猛威を奮い、この戦いが先の見えない長期戦であることを予感させました。売り上げは下降線をたどり、外部販売再開のタイミングはいくら待っても訪れない。

そんな矢先、職員の親族が勤める企業から大口注文が舞い込みました。一気に忙しくなった現場。これまで仕事とは言いながらも楽しくゆったりこなす姿しか目にしてこなかった私は、利用者のポテンシャルの高さに驚き、そしてその能力を發揮できる場こそ、彼らにとって本当に必要な居場所であることを実感しました。

コロナ禍が明けのを待つてはいられない。以前のようなミスが起きないように、前任の職員たちが取り組み、準備はほほできていました。後は動き出すだけだと感じ、販売方法を対面販売から受注販売に切り替え、近隣施設に連絡し協力をお願いしました。

受注販売は日程を綿密に調整することで、利用者にとって最適な生産量となるようにコントロールすることが出来ます。はじめは手探りでしたが徐々にかじ取りができるようになって、販売先のローテーションが確立した頃には季節は冬に移り変わっていました。

売り上げが回復したことで利用者のモチベーションが高まり、新商品開発を望む声があがって取り組みだしたのが1月。新しいことへの挑戦は難しくもありましたが、その取り組みはさらに現場に活気をもたらしたと感じています。

そして春を迎え完成した商品が、前回の会報でご紹介させていただいた「ココナッツコ

コアパウンド」です。今回、第2弾として夏限定の「レモンチーズタルト」が完成しました。詳細は巻末をご覧ください。たくさんのご注文をお待ちしております。



職員含め10名でお菓子作りを頑張っています！

社会福祉法人エゼル福祉会

おかし工房WILLゆめや 新商品のご案内

障害のある仲間たちが心を込めて作りました。自慢の手作りお菓子です。
お菓子を通じて地域とのつながりや笑顔の輪を広げていきたいと思っています。



NEW!!

レモンチーズタルト 250円

暑い季節にぴったりの「レモンチーズタルト」が夏季限定で登場します!!
人気商品チーズケーキにレモンの爽やかな酸味をプラスしました!
のど越しの良いレモンピール入りゼリーをのせて、
食感も楽しい一品に仕上げました。
ぜひ一度ご賞味ください!

◇アレルギー品目:小麦・卵・乳
◇内容量:1個 ◇直径7.4cm ◇要冷蔵

季節限定!

社会福祉法人エゼル福祉会
お菓子工房WILL ゆめや
営業時間:10:00~17:00
〒452-0813名古屋市西区赤城町146番
TEL/FAX:052-505-6089
E-mail:ezeru-will@xj.commufa.jp
HP:http://ezeru.sakura.ne.jp/

商品のデザインや形が変更となることがあります。

【銀行口座】

三菱UFJ銀行 小田井支店 店番 238 (普) 口座番号 1440108
特定非営利活動法人 コンビニの会

【郵便振替口座】 番号 00800-2-35190 コンビニの会

ご意見・ご質問・お問い合わせは下記までお寄せください。

障害のある人たちの地域生活を支援する
特定非営利活動法人

〒452-0807 名古屋市西区歌里町 147 番地

コンビニハウス Tel (052) 502-7731

Fax (052) 505-6082

コンビニの会
理事 宮川 優子

URL <http://ezeru.sakura.ne.jp/>

E-mail convini@beach.ocn.ne.jp

